

TIJ 日本語教育研究会通信

No.64 2018.5.14 発行

発行：T I J 日本語教育研究会事務局

東京都葛飾区新小岩 1-17-10

Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102

E-mail tij@tij.ne.jp

TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



皆様、ゴールデンウィークはいかが過ごされましたか。今年の5月は、気温が25度を超える夏日になったかと思えば、その翌日には冬に戻ったような寒さになったりして、不安定な天気が続いています。体温調節が難しく、風邪をひいている人も多いようです。

TIJでは今年も2月に文化発表会を行いました。今年は学生数が多くなったため、文化発表会も2年目のクラスだけの参加となりましたが、プレゼンに、劇に、スピーチにと、学生たちは自分たちの力を発揮してくれました。今号には、プレゼンテーション数編の原稿と、二人のスピーチ原稿を掲載し、発表会の様子をお伝えしたいと思います。また、短期間の準備で発表までこぎつけさせた担任の苦心談も掲載いたしました。

また、実習コース修了者のレポートも掲載いたしました。

【本号の内容】

1. プレゼンテーションスキットの指導を通して
2. プレゼンテーション原稿1 上級クラス—今昔の留学生活
3. プレゼンテーション原稿2 中上級—スリランカのお正月
4. プレゼンテーション原稿3 中級A—TIJ トラベル
5. 劇の指導を通して
6. 学生スピーチ原稿1
7. 学生スピーチ原稿2
8. 中級実習コース修了レポート

文化発表会 上級クラス プレゼンテーションスキットの指導をして

中本 澄代

1 クラス構成メンバー

「学生が自分たちで作る上げる」。これを今回の文化発表会に向けての最大の目標としてクラス運営に当たった。冬学期開始時、発表会参加のクラスのメンバーは17名。N1合格の漢字圏学生とN1挑戦レベルの非漢字圏学生が4名。ほとんどの学生が4月からこのクラスと一緒に学んできているのだが、1人で勉強するのが好きという学生が多く、協力して何かをするというのは苦手。12月の行事で初めてクラス全体でひとつのことに取り組むという経験をしたばかりである。

2 第1回目話し合い

文化発表会の昨年の内容や様子について学生に伝えた後、議事進行係2名、書記兼連絡係1名を選出し、テーマの話し合いへと進んだ。口の重いクラスなので、議事進行係は意見を出してもらえず苦戦。「ドラマにしますか」「プレゼンテーションにしますか」「やりたいものに別れましょう」とクラスは分裂に向かって行きそうだが、やりたいことをやるのが一番と考え、教師は口を出さず、次回までにそれぞれテーマを決めておくことを約束して1回目の話し合いは終了。

3 準備段階前半

「ドラマは準備、演出が難しいので断念する」と言うので、「簡単なドラマとプレゼンの組み合わせ」を提案し、テーマについての話し合いとなった。「自分たち留学生に関係のあるものをやるのがいい」「昔と今の生活を比べるのはどうか」となり、テーマは決定。教師はいくつかの項目に分けることを提案。学生達は「教育」「買い物」「連絡手段」「留学生活」の4つの項目を決め、グループに分かれた。各グループの持ち時間は5～7分。それぞれの中で伝えたいことを絞り込み、スキットの脚本、プレゼンテーション資料の作成にとりかかる。準備に使える授業時間は、週2回、1回40～50分。2週間後の全体発表練習を目標に各グループで準備を進めることとした。教師はプレゼンには客観的なデータが必要で、アンケートなどを行ってデータを集めることなどを提案。スキットのせりふ、プレゼンの原稿は3回目までに添削を受けることを指示。しかし、提出された原稿をみると、自分たちの知識、感想を述べるだけのものとなっている。どのようなデータや写真があれば説得力が増すかということを考えさせ、内容を深めていった。4回目になっても、全く提出してこないグループもある。

4 クラスの危機

4回目で全体発表練習はできず、翌日、他の時間を30分もらって、発表練習を行ったのだが、悲惨だった。ある発表は、日本語力を使ってよどみなく話し続けるが内容が薄すぎる、時間が長過ぎる、聞いている人の興味をひかない。自分では完成しているつもり学生は、教師の求めていることがわからないと言う。そのやりとりを目にしてい

る他の学生たちも、「求められていることは理解できるが、難しい。話す時間が長いと興味が薄れることはわかる」といった反応を示す。「スキットをやるのか、プレゼンをやるのか」という問いに「両方です」と応じ、「時間的にそれは無理です」という言葉に「みなさんならできます」と返した。

5 クラスの立ち直り

学生の力を信じ、発表会までの残り4回の準備予定を細かく決め、クラスで共有した。スキットと客観的なデータで裏付けられた自分たちの考えという構成を目指すことも再度伝えた。これらはかなり効果的で、練習の失敗と相まって、学生たちが目に見えて動き始めた。全体を通して考えたり、人数の足りないグループには外のグループが手伝ったりということもできるようになってきた。発表の順番、クラス全体の始まりとまとめの発表者も決まり、その原稿作成も発表者一人に任せきりにしないようにした。学生にとって「聞き手を向いて話す、演じる」ことは、思ったより難しいようで、練習が必要だった。これらの準備、練習はすべてグループ単位で行い、教師はそれぞれのグループを回るという形をとった。原稿を読むのがうまくできない学生がいて、担当部分短縮を提案しようとしたが、本人が頑張ると言うので、時間外に特訓をした。

6 発表会の成果

発表の内容は、例年の上級クラスのプレゼンテーションとはかなり異なっていたと思う。これでいいのだろうか、もっと高度なことにチャレンジさせるべきではないかと迷った。

しかし、「自分たちで作り上げる」ことを目標に、学生の力を信じて、待つと決めた。数週間の準備期間中は、受験や進路決定の時期でもあった。時間的にも精神的にも余裕があったとは思えないが、学生たちは淡々と真面目に取り組んだ。スキットは作成から楽しかったようで、かなり自然な若者の会話を再現できていた。普段は、人前に立つことを躊躇する学生も、いざとなるとしっかりできている。すらすら読めなかった学生も上手に発表できている。一人一人が全体の中の自分の役割を果たしている。学生たちの力を再認識した文化発表会だった。

プレゼンテーション原稿 1—今昔の留学生活

上級 A クラス

これから、私は留学生活について発表させていただきます。
私たちは留学生として生活しています。現代の生活は毎日体験していますが、昔の留学生活はどうだったのでしょうか？では、スキットをご覧ください。

(スキット1)

23時45分

Aさんはバイト帰り

A：ああ、疲れた～おなかすいた～

国の食べ物を食べたいな～

でも、売っている店がない

日本に持って来た食べ物も食べてしまった

ポストボックスを見て、手紙を取り出す

A：わあ、お母さんからの手紙だ！

(手紙を読んで、泣き始めた)

A：お母さんに会いたいな。今無理だけれど、せめてお母さんの声を聞きたいな

あっ、そうだ。12時になると国際電話が安くなるから、電話しようかな

Aさんは外に出て、電話をする

国際電話専用カードを入れて、電話番号をうつ。

A：もしもし、お母さん。元気？

よかった、私も元気

はい、バイト終わったよ

うん、毎日バイト頑張っているよ、お母さんとお父さんのために

ああ、勉強はもちろん

ところで、手紙が来たよ

遅いね、2ヶ月待っていたんだよ

みなさん、いかがでしょうか

国際電話・手紙



さっき見たとおり、留学生はお母さんに国際電話を使い、手紙も書きましたが、二ヶ月くらいかかることもあったようです。こちらは1990年前後の公衆電話の写真です。国際電話専用カードがあり、これを入れると、電話がつながります。さらに、深夜のほうが値段が安かったので、留学生たちは真夜中に電話をしていました。

SNS

テキストを



特徴

- ・早い、便利、安い(いつでも、どこでも、だれでも)
- ・家族や友達とネット上で繋がれる
- ・知らない遠くの人とも会話が出来たり知り合えたりする
- ・写真や動画を載せられるリアルタイムでも)

今の留学生はSkypeなどのビデオ通話、あるいはSNS例えばLINE, WeChat, KakaoTalkなどを使っています。

では、次のスキットをごらんください。

(スキット2)

12時30分

A：終わった～（背伸び）

B：みんなこれから何する？

C：寝る

A：つまんない～遊びに行こうよ

B：行こう行こう

渋谷駅前のハチコウの前

A：写真撮ろう！（自撮り）

B：インスタライブやろうよ

C：うんうん。

Bさんがインスタライブをやっている

C：ね、おなかすいたよ

何か食べようよ

何食べる？

B：自分の国の食べ物を食べたいな

C：食べたことないけど、食べてみたい！

A：いい店知ってるから、行こうか？

外国のレストランに到着

店員：お待たせしました。どうぞお召し上がりください

C：わあ、おいしそう。あっ、写真撮らないと

B：これは〇〇っていうの

C：そうなんだ

お母さんに見せようかな

ちょっとビデオ電話するね

C：お母さん、今友達とご飯食べるよ

ほら、見て

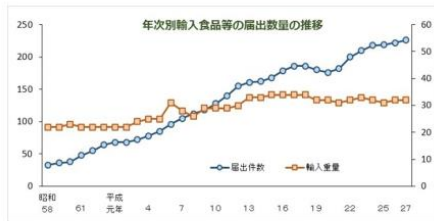
じゃ、今夜また電話するね～



昔、日本には自分の国の食材が少なかったの、自分の国から持ってきた食材を使い尽くした後は、国の料理を食べたくても、我慢するしかなかったそうです。しかし今は海外レストランが非常に多いので、私たちはさまざまな国の料理を味わえます。さらに、輸

入食材販売店も多く、多国籍の食材が簡単に手にはいります。

輸入食品監視統計(2017年)



では、輸入食品監視統計を見てください。

厚生労働省によると、輸入重量はここ十数年三千万トン前後で横ばいになっていますが、届出件数が著しく増加しています。これは、輸入される食品の種類が豊富になっているということだと考えます。

グローバル化により今の留学生活は昔より楽になっています。昔の留学生活との違いを感じていただけたでしょうか。

プレゼンテーション原稿 2—スリランカのお正月

中上級

スリランカの新年は太陰暦に従い、毎年4月にお正月を迎えます。これはスリランカで最も重要な祭典です。スリランカのシンハラ人とタミル人がこの祝日を祝っています。今年は4月13日が大晦日、14日が元日となります。スリランカで多数を占める仏教の新年の過ごし方をご紹介しますと、年末年始の行動は「占星術」によってすべて「縁起の良い時間」で決められています。元日を迎えた時、各地で爆竹や花火が打ち上がります。元日の14日ですが、まず料理を作り始めます。その後1日の活動を始めます。活動をするというのは食事をしたり出かけたりすることです。

翌日の15日は、まず頭に油をつけることと、その後仕事に出かけることです。そのことをする時、着る服装の色とやる時間は決まっています。時間は毎年変わるため、新年の1週間ぐらい前に発表されます。一通りの新年の儀式が終わるとパーティーの始まりです。お正月の料理として欠かせないキリバットやバナナや甘いお菓子などに舌鼓を

打ちます。キリバットは、ココナッツミルクとライスを使って作るスリランカの有名なお飯です。家族みんな集まって、いろいろな料理をいっぱい並べてテーブルにきれいに揃えます。

その後は家族で親戚の家々を回って、新年のお祝いをしたりお正月のいろいろなゲームをしたり楽しむのがスリランカ式のお正月の過ごし方です。



プレゼンテーション原稿 3-TIJ トラベル

中級 A

はじめに

文化発表会にあたり、中級Aクラスでプレゼンテーションのテーマを話し合いました。ベトナム、スリランカ、ミャンマー、ウズベキスタン、バングラデシュ、と、多彩な国籍の学生たちが提案したものはやはりそれぞれの国の紹介でした。しかもそれぞれの国の戦争のことについて、というような意見まで出ました。日本人の感覚ではドキッとするようなテーマではありますが、彼らにとってはほんの 20 年ほど前のことであつたりするようで、自分の国のことを語るにあたっては避けて通れないテーマだという学生もいました。

正面から「戦争」を取り上げるのも重苦しいかと思い、しかし単なる観光案内も月並みな気がしたので、「T I J トラベル」という旅行会社の社員に扮した学生たちが、それぞれの国のチームで考えた、「日本人の知らない自分の国」について日本人のお客様に知っていただき、他ではできない旅行のプランを提案するというプレゼンテーションとなりました。

ベトナム



皆さまこんにちは。わたくしたちは、今回、ベトナムで結婚式をしよう！というツアーをご用意いたしました。どうぞごらんください。ベトナムの結婚式は、とても盛大で、楽しいものです。ご結婚予定のカップル、そして、ご両親、ご家族、そしてお友達のみなさんも、一緒に日本を出発して、ホテルで、結納式を行います。結納式は花婿の家族の男性 5 人、花嫁の家族の女性が 5 人参加します。この写真のように、男性 5 人と女性人が向かいあつて立って、花婿側からケーキとくだものを花嫁の方に渡します。そのあと、花婿と花嫁は、ゆびわを交換します。結納式の、ケーキ、くだもの、それから、この写真の葉っぱを、カオチョウといいますが、この飾りもご用意いたします。結納式は、両方のご両親と 5 人のお友だちだけが参加します。そのほかの、ご親戚、お友達の皆さんは、この間、ハノイでお買い物を楽しんでいただきます。

そして次の日は結婚式です。ベトナムの結婚式は二日間続きます。花婿、花嫁のドレス、会場の飾り、お料理、音楽、歌手、カラオケ、などの準備は私共で全部いたしますので、ご安心ください。ベトナムでは、結婚式に新しいベッドをきれいに飾って、用意します。このような新しいベッド、ふとんもご用意しますよ。写真もたくさん撮りますし、ビデオもお作りします。

さて、無事に結婚式が終わりました。花婿と花嫁はここから、新婚旅行に出発し

ます。私たちのおすすめは、ダナンです。ダナンは、ハノイから飛行機で1時間半くらいで行けます。涼しくて、きれいな海岸があります。

ダナンの景色といえば、**BANA HILLS** バナヒルズです。ベトナムで **BANA HILLS** バナヒルズは一番有名な観光地です。そして、ハン川、**NGU HANH SORO** ハンソロ山、そして特に、**RONG** ロン橋が有名ですが、**RONG** ロンは、「竜、ドラゴン」の意味です。これはダナンのエンブレムとって良いでしょう。夜はライトアップされて、とてもきれいですよ。みなさんも、ハネムーンでなくても、お時間がありましたら、ぜひダナンへいらっしやってください。



そして、ご両親、お友達の皆さんは、日本へ帰る飛行機に乗っていただきます。もちろん、お帰りの前には、いろいろなお土産のお買い物をする時間をご用意します。おすすめのおみやげは、アオザイとノンラーです。ノンラーは、この、傘です。これは、夏の強い日差しから顔を守る役割を持っています。アオザイは、私の友達の店をご紹介します。お安くしておきますので、ぜひどうぞ。男性用、女性用もあります。お客様に大変人気ですよ。

ご結婚がお決まりのカップルの皆様、ちょっとユニークな結婚式をベトナムスタイルでいかがでしょうか。ご連絡、お待ちしております！

バングラデシュ

私たちは、「私たちの国、バングラデシュを知って、ふつうのおばあちゃんのうちに遊びに行こう！」というツアーを企画しました。みなさん、私たちは、「バングラデシュのおばあちゃんのうちへ遊びに行こう！」というプランをご提案します。わたしたちの国、バングラデシュは、インドのとなりにある、発展途上国です。

バングラデシュでは、1971年に東パキスタンとの間に大きい戦争がありました。この戦争のために300万人がなくなりました。これはとても悲しい歴史ですが、今はバングラデシュもパキスタンも平和な国です。

おばあちゃんのうちに行く前に、バングラデシュの有名なところをちょっとご紹介します。バングラデシュの首都は、ダッカです。ダッカはモスクの町と呼ばれています。また、Cox's Bazar は、世界一長いビーチと呼ばれています。120キロの長さがあります。ここで見る、日の出と日没はとてもみごとです。

自然のきれいなところは、**Shundorbon** シュンドルボン です。ここは、ユネスコの世界遺産で、大きなマングローブの林です。ここには、ベンガル・タイガーやいろいろな野生動物が住んでいます。



ともできます。おばあちゃんの家近くではいろいろな動物を見ることができます。トラ、シカ、ワニなどがいますよ。



そしていろいろな、くだものがあります。私のおすすめは、マンゴー、ジャックフルーツ、すいかなどです。日本の果物より、甘くてとてもおいしいです。それに、安いです。

おばあちゃんの料理は、ちょっとからいですが、おいしいですよ。ビリヤニ、Vaat, Daal それから魚の料理など、いろいろなBangladeshの料理をお楽しみください。

4月にはBangladeshの新しい年が始まります。そのときには、大きいお祭りがあります。このお祭りのときに行くのがおすすめです。いろいろなめずらしい行事を、見ることができます。

私たちは、このキャンペーンのために、Bangladesh国内での費用はすべてサービスいたします。皆さんは、お金のことは心配しないで、Bangladeshのおばあちゃんのうちの生活を楽しんでください。ぜひ、この機会にBangladeshにいらっしゃってください。二度とないチャンスです。ご連絡、お待ちしております。

文化発表会 一劇の指導をしてー

山西麻理

今回の文化発表会は教師が指導らしい指導をしていないので、お役に立てるかどうかわかりませんが、彼らがやってきたことを簡単にまとめてみようと思います。

・教師側が指導をしないと決めた理由

上級Bクラスは個としては皆すばらしい能力を持った学生ばかりでしたが、残念なことに彼らのほとんどが「相手の気持ちを考えない・going my way (我が道しか行かない)」という欠点がありました。このような学生たちが文化発表会という大きな舞台で何がで

きるだろうと担任としては頭を抱えましたが、彼らがどこまで成長したのか知りたくなく、今回はすべて彼らに任せてみようと思いました。

・クラスリーダーを決めるまで

最初に劇をやることを全員で決め、クラスリーダーを決めました。このクラスリーダーも推薦や教師からお願いするのではなく、自ら立候補する形をとりました。覇気のないクラスですので、もちろん立候補者など出るはずがありません。10分以上時間をかけ学生自ら手をあげるまで待ち続けました。

・学生の練習風景と教師の気づき

リーダーを決めてからは演目・配役決め、練習などはすべて彼らに任せ、私は一切口を出すのをやめました。始めの頃は珍しさもありみんな真面目にリーダーの指示に従い問題なく進んでいました。しかし我が道しか行かない彼らです。次第に興味は失せ、上手な子がやればいいという他力本願な者、自分は進学が決まっておらずそれどころではないという雰囲気醸し出し自分の世界に入る者などチームワークは見事に乱れ、嫌な雰囲気になりかけていました。いつもであればここで私が出ていき、やらない学生を叱り飛ばしているところですが、そこをグッと堪えて様子を見てみると、真面目な学生きちんと言いたいことを相手に伝えていました。

またリーダーから「このクラスの学生はやる気がない。(どうすればいいのかわからない)」とぼやきもありました。このときもあまり口を出さずに「やる気はあると思うけど、何をしたらいいのかわからないだけじゃない。もう少し細かく指示を出してみたら。」と簡単なアドバイス程度にとどめておきました。するとリーダーはまるで舞台監督のように演劇指導を始めました。それにつられて他の学生も何となく練習をするようになり、PPT作成や小道具など必要なものを用意し始めるなど再びチームワークが戻ってきました。もしここで私が前に出て口を出していたら、練習はすぐに再開したかもしれませんが、指示を待つだけで、今回のように自ら気づき、自発的に何かをするということはなかったかもしれません。それはわたしにとって大きな気づきでした。

・最後に

文化発表当日は練習の成果が大いに発揮されたとても良い内容でした。発音の練習などにあまり時間が割けなかったところは反省すべき点でしたが、学生の堂々とした姿から頼もしさを感じ、非常にうれしく思いました。それと同時に、彼らの自発的な力を引き出すことの難しさ、また教師が手を出していい場面の選び方や手助けの方法をどのようにすればいいかを考えさせられるとてもいい機会になりました。

最後に佐々木先生や歌原先生など先生方からのサポートのおかげで、学生たちも飽きずに頑張り続けることができました。本当にありがとうございました。

学生スピーチ原稿 1ー近くの他人

上級 A インディラ



私ははじめて海外に来て、約二年間留学生として生活し、いろいろな出来事や新たなことを体験しました。いろいろな国から来た人たちと出会い、仲良くなり、交流しています。皆さんもご存知のとおり、近年、日本に来ている外国人が非常に多いです。留学、旅行、研修、就職、など、さまざまな目的で来ています。しかし、私たちはどうして日本に来たかったのか、留学したかったのか、意味は何

なのか、最近そんな疑問が頭に浮かんできました。

留学する一番多い理由はその国へのあこがれではないかと思います。日本の場合は、やはりアニメやゲーム、音楽や伝統文化ですね。国でも見られるものだとしても自分の目で見たい、直接体験したらうれしくて、一生忘れないことになるでしょうね。そして、海外の生活をしてみたかったから、という理由で留学する人もたくさんいますね。アニメや映画を見て、ああいう生活ができたらいいなと思って留学している人もいます。実際にやってみたら、面白かったとか大変だったとかいろいろな感想が出ているかもしれません。自分の国では普通のことだけれど、海外では変なことだと思われること、そんなことに気づいたこともたくさんあるでしょう。

またその国の言葉を上達させたいからという理由ももちろんでしょう。私も自分の国で勉強していましたが、直接話す機会がなかなかなかったり、この言葉はどんなときどう使うか分からないという問題がありました。しかし、日本で直接勉強したら話せるようになり、自分の意見を伝えられ、他人とやり取りできるようになってきました。

いままで出会った留学生たちに聞いた留学の目的は、さまざまです。海外で活動したい、進学したい、お金のため、もっと自由になりたい、外国人と結婚したい、などいろいろな目的を持っています。

みなさんは留学の意味を見つけられましたか。家族と離れ、遠いところで暮らす意味は何でしょうか。私にとっては、自分のまわりの人を見て、自分がすべきことを知ったということです。まわりの人と助け合うことの大切さを学んだということです。日本に来た時、何もできなかった私はまわりの方の優しさをもらったり、クラスの仲間の努力する姿を見て、自分ももっとがんばらないといけないと何度も思いました。失敗しても、二度としないように頑張っていくのが大事なことじゃないかと考えるようになりました。また、人間関係を大切にして、他人に迷惑かけないように、傷つけないように気をつけることも大切です。

私はT I Jに入学した時、自分がちょっと違う姿で友達ができるかな、変な人だと思

われてしまうという不安がありました。みんなはとても親切で優しくしてくれました。

私たち留学生は、家族から遠く離れた所で生きています。でも遠くの親類より近くの他人という言葉があります。いろいろな国から来ている友達と一緒に留学生活の意味を深めていきましょう。

学生スピーチ原稿 2- 「日本はおもしろい、日本人もおもしろい」

中上級 ピウミ



日本はおもしろいですか？ おもしろいといえば、どんなことでしょうか。

まず、島についてです。4つの大きな島があって、北海道、本州、四国、九州、と呼ばれています。国の73%は山で、広い平野は少ないです。冬はたくさん雪が降って、夏は暑くて、四季は春、夏、秋、冬とはっきりしています。日本は4月に桜の花が咲くからで

しょうか。学校は4月に入学式をやって始まります。それで、会社も4月に始まります。言葉は日本語一つですが、宗教はいろいろで仏教、キリスト教などがあり、好きなものを選んでいいようです。米を中心に食べているんですが、ラーメン、うどん、そば、などの麺類も人気です。豆腐や納豆、味噌など伝統的な体にいい食べ物のほか、野菜、魚、肉など何でも食べられ、生の魚や生の肉も食べられています。いちばん有名な食べ物はすしです。外国人の場合は、初めは食べられない人が多いですが、1回か2回食べたらおいしいと感じるのではないのでしょうか。てんぷらも有名ですが、こちらは外国人もだいたい好きなのではないのでしょうか。飲み物では日本酒が有名ですね。

日本では一年の中に毎月のようにいろいろな文化的なことがあります。年行事と言われます。2月3日の豆まき、恵方巻きを食べること、3月3日の雛祭りでは雛あられを食べ、5月5日のこどもの日には、柏餅やちまきを食べます。9月のお月見でだんごを食べる、12月31日はそばを食べる、など、その日に何を食べるか決まっていることは本当におもしろいことです。そのほかに1月の成人式や夏の花火大会など日本に来てわかったことですが、日本人の生活を見ていると、みんながそれらをやっていて、誰でも参加するのがおもしろいです。

それ以外にいちばんびっくりしたことは、1月1日の新年の日です。みんな自分の家とか会社には門松とかの飾り物がありますが、道には何も装飾がないことです。それから、あさ みんなお寺や神社へ行くことです。私も浅草寺というお寺に行ったとき、本当にびっくりしました。人が多すぎて、歩く道はなくて、食べる場所もなくて、日本は本当におもしろいと思いました。

おもしろいといえば、日本人もおもしろいです。

私が今まで見たことでいちばん大事なことは挨拶です。小さい子どもでも大人でも若者でも、どこでもどんなときでも、ちゃんと挨拶をしています。日本人はいつも自分自身だけを考えるんじゃなくて、ほかの人のことも考えています。たとえば、エスカレーターの左側に立って、右側は歩いていく人に空けていること、ほかの国だったら注意を書いてあっても皆やらないと思いますが、日本人は書いてなくてもちゃんとやっています。人が多すぎるほどいるのに、電車に乗っても、自分が降りるところまで、ちゃんと寝ることができます。皆電話で話さないでサイレントにしていますから、うるさくないです。ゴミを出すことも日本人はちゃんとやっていて、一週間の中で分けて、ちゃんと出す場所に出すから歩く道はめっちゃきれいです。ゴミが全然ないです。だから、日本はきれいな国です。買い物しても、銀行に行っても、病院に行っても、本当に日本人を尊敬します。

いちばん忙しいレストランでも、携帯や財布、パソコンなどを忘れて帰っても誰もそれを盗んだり、持って行ったりしません。

自転車を道に止めても鍵をかけたバイクを置いて誰も盗みません。コンビニで売っている食べ物を買っても日本人は歩きながら食べません。家の中では靴を履かず、ちゃんと玄関で脱ぎます。清潔がいちばん大事だというのが日本人の考えです。

自分が病気になっているとき、ちゃんとマスクをかけます。それは、ほかの人にうつたら自分と同じように大変だと考えるからでしょう。車を運転するとき、あまりクラクションを使わない、だから、町を歩いていてもうるさくない、皆ちゃんとルールを守っていることがすばらしいと思います。

買い物でも安いからといって良くないわけではありません。100円ショップのものでも品質がいいです。

学校でも、仕事の場所でも間違えたことがあった時日本人はすぐにやり直してくれます。わからない時はちゃんと教えてくれます。そして、次はがんばって、あなたならできるよ、と言ってくれます。

日本人は本当にまじめで、まだまだ言いたいことはたくさんあるんですけど、そろそろ終わりにしようと思います。

最後に言いたいことがあります。私たちは外国人です。ここは日本です。日本人の国です。だから、日本の良いこと、おもしろいことは皆さんもちゃんとまもってください。

中級実習コース修了レポート

杉浦 裕以

TIJ では、以前初級の実習コースを受講し貴重な勉強をさせていただきましたが、中級の教え方についても学びたいと思い、今回中級の実習コースを受講し、授業見学および教壇実習を経験しました。見学させていただいた授業はいずれも、テンポがよく、活気に満ち、教師と学習者がともに作り上げていくものでした。文型の授業を中心に勉強しましたので、中級の文型の教え方について学んだことをまとめます。

初級の文型は、日常生活に必要な基本的な表現が中心であるのに対し、中級の文型は、主に特定の場面で使われたり細かい気持ちを表したりするより複雑な表現で、進学のために不可欠なものです。中級の学習者は、その文型表現を使って自分のこと（経験・状況・心情）を適切に表現できるようになるのが目標で、そのために、教師は、文法的に正しく、かつ、学習者の意図が十分に反映された文になるよう、学習者の文を修正するとのことでした。そこで、文型の導入の仕方および練習の進め方について教えていただきました。

導入では、日常の具体的な場面を示しながら学習者が興味をもつ内容で導入の文を提示し、学習者が使用場面とあわせて文型の意味を理解できるようにすることが大切だと知りました。学習者が実際に文型を使えるようになるために、使用場面を示すことは非常に重要だということでした。

また、提示する導入の文の作り方について、詳しくご指導いただきました。具体的には、2つの方法があり、その第一は、教師自身がその文型を使うのはどのようなときかについて考え、多くの例を挙げ、その中から学習者が理解しやすいものを選ぶという方法です。教師が生きている世界や教師の人間像を学習者に正直に示すことで、学習者も自身の世界を正直に出すようになり、生き生きとした授業になるということでした。実際の授業を見せていただきましたが、授業に活気が生まれるだけでなく、教師と学習者との心理的な関係も深まる様子でした。第二の方法は、学習者の立場に立ち、学習者がその文型を使いたいと思うのはどのようなときかについて考えるというものです。これも実際に見せていただきましたが、学習者は、このときにこの文型でこう表現するのかと納得し、その文型を使いたい気持ちになる様子で、自然と発話も増えていました。これは、初級クラスで文型を導入する際に大切だと教えていただいた、生活の中の具体的な場面や話題を提示し学習者を話したい気持ちにさせることと共通しているように思いました。

練習では、その文型を使い、学習者が自分のこと（経験・状況・心情）を表現したり、一般的な内容の文を作ったりするのですが、大切だと教えていただいたこと

を2つ挙げます。第一は、実際に使える文を作るということです。例えば、実習で取り扱った文型の一つである「～はともかく」の練習問題に、「____は、____はともかく（として）、____人です」という文があり、私は、兄弟などの身内を相手に薦める文を用意したのですが、学習者は、たとえ身内でも失礼になるため使わないとして、結局、海外の俳優について欠点を認めながら褒めるという内容の文を作ってくれました。教師も、いつ使うのかをよく考え、現実的な文を考えなければならぬと思いました。また、練習で大切だと学んだ第二は、学習者の答えに対し教師が興味をもって質問することです。内容について尋ねることにより、学習者は、本当に言いたいことを話すことができ、コミュニケーションできるということでした。実際の実習では、学習者の答えが単なる例としての文だという場合もありましたが、自分のことを話し内容が深まった場合もありました。

また、練習で文を作る際に、教師が学習者を適切に誘導することで、学習者は、自身のことが一層話しやすくなるということも知りました。誘導の仕方について教えていただいたことを3つ挙げます。第一は、当該の状況で身近な例があるかどうかをさりげなく聞くということです。学習者の立場に立ちできるだけ具体的な聞き方をすることにより、学習者はその状況を自分のこととしてイメージしやすくなり、思考が進むようでした。聞き方次第で授業の発展の仕方がかなり変わることを知りました。また、教師自身の例や日本の事例をあげてから学習者に問いかけることでも、自然な形で発話が促されるようでした。第二は、その文型を使う場面をイメージすることが難しい場合は、教師が特定の場面を設定するということです。場面を設定することにより、状況がイメージでき発話しやすくなるだけでなく、実際の使用にも役立つと思いました。また、第三は、学習者が文をまとめにくい場合や文法的に誤った理解をする可能性がある場合は、あらかじめ語彙や文法のヒントを出しておくということです。例えば、文型「～をはじめ」の練習問題に、「コンビニには____をはじめ、____など____が並んでいる」という文があったのですが、学習者が文をまとめやすいように、コンビニにはどんなものが並んでいるかをまず質問し、学習者の発言次第で、最後の語彙を「さまざまな食べ物」と特定してから残りの語彙を共に考えたり、初めの語彙を「食べ物」と特定してから残りの語彙を考えたりするとよいと教えていただきました。実際の実習で進めたところ、学習者も理解しやすい様子でした。

学習者が作成した文に対し、教師は、文法的に正しくかつ学習者の意図が十分に反映されるよう修正するのですが、そのために、学習者の答えを予想し、事前準備をすることが大切だと思いました。具体的には、学習者の文で正誤の判断があいまいな場合があるため、その判断基準を決めておいたり、提示できそうな新しい表現を用意しておいたりすることです。この準備は、授業をテンポよく進めるためにも大切でした。

今回のコースで学んだことは、中級に限らず日本語の授業全体の根幹となることも多く、今後はこれらを生かした授業をしたいと思います。また、授業見学および実習を通し、先生方が深い思いやりをもって学習者の方を指導されていることを深く感じ、その点においても、TIJで勉強できたことを本当に幸せに思いました。最後になりましたが、授業を見学させてくださった先生方、そして貴重な助言をくださりご指導くださった先生方に、心から感謝申し上げます。